

質問書回答

平成 27 年 2 月 2 日

案件名:「カンボジア国プノンペン-バット高規格幹線道路整備事業準備調査」
 (公示日:2015年1月21日) / 番号:141166)について、質問の回答は以下のとおりです。

通番	当該頁項目	質問	回答
1	4 ページ 第 6 プロポーザルの 提出手続き等		1. (3) 提出物 : 「プロポーザル正 1 部 写 4 部」を 「プロポーザル正 1 部 写 6 部」に修正し ます。
2	P4 調査実施時期	<p>留意事項(12)「調査実施時期」に「乾季(11月-4月)」となっておりますが、メコン川の水位記録(平均値)からは 12 月中旬まで地表面が水で覆われている可能性が高いと考えられます。</p> <p>コンサルタントの国道 5 号線調査等の経験から、2015 年 12 月中旬に地表測量に着手すると、その成果品(道路設計に使用する地形データ)が出来上がるのは 2016 年 3 月頃になると見られます。この時点から、業務指示書に定められた準備調査報告書(ドラフト)(以下「DFR」と略記します)の提出時期(2016 年 6 月)までの 3 ヶ月間で、道路設計・事業費積算・経済・財務分析、資金計画など数多くの作業を完了する計画とすると、「無理のあるスケジュール」と評価されることをコンサルタントとしては危惧しております。</p> <p>プロポーザルの工程計画の評価に当たっては、この点を考慮して頂けるのでしょうか？</p>	<p>雨季・乾季の状況も考慮の上、適切に調査が行えるようなスケジュールをプロポーザルでご提案下さい。</p> <p>指示書で提示したスケジュールを守ってください。但し、調査期間に影響を及ぼすリスクが考えられる場合には、プロポーザルでご指摘ください。</p>
3	P 5 (16)安全対策	業務指示書では『「ODA 建設工事安全管理ガイドンス」に係る概要	ご指摘の通り、本ガイドンスは工事段階での

通番	当該頁項目	質問	回答
		<p>説明を行うことで、初期段階での情報収集及びカンボジア政府への理解促進を図る』と指示されていますが、上記「ガイダンス」は実際の工事を施工する際の現場での安全管理についてのマニュアルとなっています。これを協力準備調査の段階で相手政府に説明することの意図はどのようなものでしょうか？</p>	<p>安全管理について記載したものです。しかしながら、安全対策については、施工段階でなく審査段階から先方政府と合意する必要があるため、その準備として業務指示書に記載しています。</p> <p>本調査業務には、「コンサルティング・サービスの実施計画案の策定」が含まれており、本ガイダンスの適用有無によって、ご検討頂くコンサルティング・サービスの内容が異なってきますので、実施機関に対して十分な説明を行うことが必要となるというのが本指示の意図になります。</p>
4	<p>P6「候補路線2ルートの現況調査及び予定路線決定支援」の③「都心環状線及び候補路線周辺において現状の交通量調査及び将来の交通需要予測を行う」</p>	<p>コンサルタントとしては、フェーズⅠでは「カ」国政府が路線を決定するのを支援することが最大の業務であると理解しています。この段階では、交通量データは「プノンペン-ホーチミン市高速道路整備計画にかかる情報収集・確認調査(以下「情報収集・確認調査」と略記します)」で実施した2ルートの交通需要予測結果を見直し、必要な修正を加える程度で足りると考えます。また、プノンペン環状線は既に国道5号線～21号線の区間が往復分離の4車線で計画されていることを考えると、この段階(フェーズⅠ)では本調査対象区間(国道21号線～国道1号線新プノンペン港)についても、4車線と仮定して作業を進めることで、大きな問題は無いと考えられます。</p> <p>また、高規格道路についてもフェーズⅠの段階では、往復分離4車線以上と仮定しても大きな支障はないと考えられます。</p> <p>重ねて、この時期はクメール正月や国王誕生日等の連休が続き、更に今年3月に予定されているネアックルンの橋の開通直後であることから、平常時とは異なる交通コンサルタントとしては、この時期に交</p>	<p>「情報収集・確認調査」時から交通量が変化している可能性が考えられるため、業務内容に含めています。</p> <p>クメール正月や国王誕生日等の連休、またネアックルン橋の開通が一時的に交通量変化に影響を及ぼす可能性が高いことはご指摘いただいた通りです。これらを踏まえ、調査時期や実施方法については、フェーズⅠの段階で適切と考えられるものをプロポーザルでご提案下さい。</p>

通番	当該頁項目	質問	回答
		通調査を実施することは適当でないと考えますが、この時期に実施する JICA の意図をお示ください。	
5	P7 (6)「事業スキームの検討」	ここでいう「事業スキーム」の検討とは主として「PPP を含む資金調達の方法の検討」を指すと理解してよろしいでしょうか？もしそうであるとすると、資金調達計画は、フェーズⅡの後段で交通量予測結果から計算される料金収入の予測と事業費積算が出来た段階で、有料道路としての採算検討と並行して実施する方が、より精度が高く、定量的な検討が可能であると考えます。ルートが固定されず、交通量(料金収入)や事業費が正確に推定されていない段階で、PPP 等の事業スキームを検討する意図をお示ください。	ご指摘の通り、「PPP を含む資金調達の方法の検討」との理解で問題ございません。最終的な資金調達計画や事業スキームはご指摘の通り、交通量や事業費が正確に推計された段階で検討されることとなりますが、事業スキームや資金調達計画のコンセプトや可能性の検討自体は早い段階から進めて頂きたいという趣旨で、フェーズ 1 の業務内容に含めています。
6	P7 「基本計画の決定に必要な調査」の(1)「自然条件調査」	<p>「基本計画の決定に必要な調査」の(1)「自然条件調査」及び「別添 2」で「新設道路の土工区間」で「施工予定箇所周辺の状況を把握するため」CBR 調査することを意味しているのでしょうか？</p> <p>「情報収集・確認調査」では本調査対象道路の構造として盛土或いは高架構造を提案しています。このような構造となる場合、舗装構造は新たに構築される盛土或いは高架橋の上に構築されることから、原地盤の CBR は舗装設計には反映されないと考えられますが、業務指示書の意図はどのようなことでしょうか？</p> <p>また、路面温度を測定することとなっていますが、アスファルトの配合設計を視野に入れてのことと思われま。通常アスファルト配合設計は詳細設計の段階で行いますが、本件調査で路面温度を測定する目的はどのようなことでしょうか？</p>	別添 2 の自然条件調査仕様書は、実施すべき調査項目を参考までに記したものであるため、適切と考えられる調査内容をご提案下さい。
7	P23 別添 2 (2)地質調査 ③調査内容「地耐力試験」	「地耐力試験」を実施することとなっていますが、この意図はどのようなもののでしょうか？「地耐力試験」とは一般に、直接基礎のような基礎形式の場合に、予定の支持層まで掘削しておこなう平板載荷試験のような調査を指すと考えられます。本調査対象道路が通過する地	別添 2 の自然条件調査仕様書は、実施すべき調査項目を参考までに記したものであるため、適切と考えられる調査内容をご提案下さい。

通番	当該頁項目	質問	回答
		<p>域は全体として軟弱であるため、直接基礎は採用される可能性は低いと考えられます。また、地耐力試験は実施する場合かなりの費用も必要となるため、通常は詳細設計段階或いは施工段階で、設計の妥当性をチェックするために行われることが多いと思います。</p> <p>業務指示書の「別添 2」に地耐力調査を記載している意図をお示ください。</p>	
8	<p>P3 5. 実施方針及び留意事項 (4)業務の実施体制</p>	<p>過去のカンボジア事業では、MPWT からのステアリング・コミッティ参加は全て国際課で、道路課が殆ど入っていなかったため、技術的な協議が進展しないということがありました。業務指示書には「高速道路局が設立予定」とありますが、今回のカウンターパートは高速道路局になるのでしょうか、それとも国際局になるのでしょうか。</p> <p>※1/21(水)業務実施説明会での質問</p>	<p>今回のカウンターパートは国際局となります。</p>

以上